

2025年度
第1期フォスターシティ市ホームステイ事業報告書
2025年8月2日（土）～8月11日（月）



稲城市姉妹友好都市交流協会
Inagi Inter-city Friendship Association



Foster City Sister City Association

稲城市姉妹友好都市交流協会

目 次

◆ 稲城市長あいさつ	1
◆ 稲城市姉妹友好都市交流協会会長あいさつ	2
◆ フォスターシティ姉妹都市協会会長あいさつ	3
◆ ホームステイ事業概要	5～6
◆ 第1期ホームステイプログラム参加者・引率者名簿	7
◆ 事前・事後研修日程	8～11
◆ プログラム日程	12～13
◆ ホストファミリー名簿	14
◆ 活動記録	15～24
◆ 参加者報告書	25～49
◆ フォトアルバム	50～55



稲城市長 高橋勝浩

稲城市が令和3年7月にフォスターシティ市と姉妹都市提携を締結して以来、稲城市姉妹友好都市交流協会の皆さんには、両市の交流に多大なご貢献をいただいております。心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、令和4年10月以降にフォスターシティ市からの来稲が3回実現し、順調に交流を深めていく中で、稲城市からフォスターシティ市への訪問は令和5年2月に実施した市民ツアーの1回のみでありました。早期に子どもたちが渡米する機会を設定したいと思っていたところ、関係者の皆さまのご尽力のおかげで、今夏に初めて高校生6人をフォスターシティ市でのホームステイに送り出すことができました。

6人は、出発の約半年前からオリエンテーションと研修への参加、現地での自己紹介及び稲城市紹介の事前用意など、一生懸命に準備を進めてくれました。そして無事、8月2日に、8泊10日のホームステイの旅に出発することができました。私も現地で子どもたちを激励することを約束していましたので、8月2日～8日の日程で、自費で渡米いたしました。

ホームステイは10日という短い日程ではありましたが、フォスターシティ市のステイシー・ヒメネス市長や市議会議員を表敬訪問し、英語での自己紹介と稲城市の説明を立派にやりとげたほか、異国の地で初対面の家庭に1週間も滞在するという貴重な経験を通して、6人とも心身ともに大きく成長することができたのではないのでしょうか。ぜひとも、この経験を稲城市の将来に活かしていただけるようお願いします。

今回のプログラムの実施にあたり、交流協会の皆さんには大変お世話になりました。今後も両市の交流を深める機会を持ち、子どもたちの国際化も実現していけるような活動を継続していけることを願っております。

結びに、交流協会の皆さまに深く敬意と感謝を申し上げますとともに、ますますのご発展と、会員の皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。



稲城市姉妹友好都市交流協会会長 安東道正

稲城市姉妹友好都市交流協会は設立当初から子ども達の海外ホームステイ事業が一番大きな柱でした。この度6人の高校生をアメリカ合衆国カリフォルニア州サンマテオ郡フォスターシティ市でのホームステイ事業を実施しましたのでご報告いたします。

2020年稲城市姉妹友好都市交流協会を設立しました。交流協会は海外交流委員会、国内交流委員会、地域交流委員会から構成されています。

姉妹都市交流は多文化交流を目的に活動しています。文化交流、スポーツ交流、教育交流、産業交流と多岐に渡り交流をします。中でも将来の時代を担う子どもたちの多文化交流が一番のイベントになります。ホームステイで子ども達が多文化を体験して学ぶことは多くの意義があります。

フォスターシティ市と2021年に姉妹都市締結しました。2022年1のまちいなぎ市民まつりにフォスターシティ市の市民33名が来稲、2023年2月稲城から市長始め11名が訪問、2023年8月フォスターシティ市の子どもサッカーチームが来稲、2024年8月フォスターシティ市の子ども野球チームが来稲し両市の交流を深めました。

2025年8月に高校生6人がフォスターシティ市にホームステイしました。ホームステイに参加する生徒の募集を前年から始め15名の応募があり12月に選考会を実施して6名が選ばれました。選ばれた6名の生徒はオリエンテーションと4回の事前研修を行い8月2日から11日までホームステイを行いました。

応募してきた生徒は全員優劣付け難い優秀な生徒でした。選ばれた生徒はオリエンテーション、事前研修を経て壮行会での挨拶は英語力も含め会話がアップしていました。

ホームステイを受け入れていただいたフォスターシティ市のご家族の皆様と素晴らしい交流ができたと聞きました。報告会での生徒の皆さんのお話を楽しみにしています。

今回第一陣のホームステイを支援していただきました高橋市長始め行政の皆様、ご家族の皆様に感謝申し上げます。

稲城市姉妹友好都市交流協会の海外交流委員会中井委員長、藤島副委員長、関係していただいた委員の皆さんに敬意を表します。



David Saito
Chairperson, Foster City Sister City Association

It was our pleasure to host the inaugural group of Inagi students this past August in Foster City. As we continue to grow our overall sister city relationship, we've now successfully sent 2 youth athletic groups from Foster City to Inagi City where they were welcomed and treated as celebrities during their time in Japan.

Our focus with this initial homestay program was to set a foundation for ongoing groups of Inagi youth ambassadors to come to the United States and experience a full range of cultural and exchange activities over the week they are here.

The host families represented a key element of America's cultural history, that we are a country built out of the melding of different cultures from around the world. With some being recent transplants to America and others having been here for multiple generations. In having families with different backgrounds, we were able to provide a variety of interactions and experiences for the participants beyond those planned by the Foster City Sister City Association.

Alongside of that, we hoped to provide an array of experiences that highlighted the special place we believe Foster City to be and were extremely happy that there were opportunities for the Inagi participants to interact with the community, our local government, and past youth sports participants.

All in all, 2025 marked just the beginning of what we all hope to see become an evergreen exchange program that helps continue to reinforce the strong bridge established between Foster City and Inagi City. And I hope that the participants stay in touch with their host families and that if the opportunity arises, they are able to share some of Inagi with them should they find their way over to Tokyo.

<日本語訳>

フォスターシティ姉妹都市協会会長 David Saito

この8月、稲城市の生徒の皆さんをフォスターシティで初めてお迎えできたことは、私たちにとって大きな喜びでした。姉妹都市交流全体の発展を続ける中で、これまでにフォスターシティから稲城市へ2つの青少年スポーツ団を派遣し、日本では温かく迎えられ、まるで有名人のようにもてなしていただきました。

今回の初めてのホームステイプログラムでは、今後も継続的に稲城のユースアンバサダーの皆さんがアメリカを訪れ、滞在期間中に多様な文化交流活動を体験できるよう、その基盤を築くことを目的としていました。

ホストファミリーの皆さんは、アメリカの文化的歴史を象徴する重要な存在でした。アメリカは世界中のさまざまな文化が融合して築かれた国であり、ホストファミリーの中には最近移住してきた方々もいれば、何世代にもわたりアメリカに暮らしている方々もいました。異なる背景を持つ家庭に滞在することで、フォスターシティ姉妹都市協会が企画した活動以外にも、多様な交流や体験を参加者に提供することができました。

さらに、私たちが特に魅力的だと感じているフォスターシティの良さを体験してもらえよう、地域社会や市役所、そして過去の青少年スポーツ交流の参加者との交流の機会が得られたことを大変嬉しく思っています。

総じて、2025年はフォスターシティと稲城市の間に築かれた強い架け橋をさらに強固にし、今後も長く続く交流プログラムの始まりとなりました。参加者の皆さんがホストファミリーとのつながりを保ち、もし機会があれば、東京を訪れる際に稲城の魅力をホストファミリーに伝えてくれることを願っています。

ホームステイ事業概要

<事業の目的>

本事業は、稲城市民と姉妹都市フォスターシティ市の市民との相互交流を推進することにより、多文化共生による心豊かな市民生活の向上及び地域の活性化に寄与し、次世代を担う国際的な視点をもつ青少年の育成を目的とします。

<参加人数>

6名（+交流協会より引率の大人2名）

（2025年度に稲城市内在住の高校生相当の年齢の方（2007年4月2日～2010年4月1日生まれの方）

<ホームステイ先>

派遣先：アメリカ合衆国カリフォルニア州フォスターシティ市

日程：2025年8月2日（土）出国～8月11日（月）帰国 8泊10日

<実施に向けた活動>

- ・2023年7月 フォスターシティ市よりサッカーチーム来稲時にホームステイについての意見交換
- ・2023年12月～ フォスターシティ姉妹都市協会とホームステイプログラムについて定期的に議論開始
- ・2024年9月 ホームステイ参加者募集チラシ作成
- ・2024年10月 市民まつりにて募集PR実施
- ・2024年11月 募集要項公開・募集開始

<実施に向けた活動>

実施内容	日程	備考
募集期間	2024年11月1日 ～11月30日	16名応募 (男子5名、女子11名)
選考期間(書類及び面接)	2024年12月1日 ～12月22日	面接日は2024年12月22日 男子1名辞退の為15名を面接
通知	2024年12月27日	決定結果は合否に関わらず、 応募者全員にメールで通知
オリエンテーション	2025年2月2日AM 2025年7月13日PM	保護者及び参加者が対象
事前研修	2025年2月2日PM 2025年3月30日 2025年5月11日 2025年7月13日AM	参加者が対象
壮行会	2025年7月26日	
フォスターシティでの ホームステイ	2025年8月2日 ～8月11日	
報告書作成・報告会準備	2025年9月28日AM	
報告会	2025年11月9日 14:00～	次回応募者向けの プレゼンテーション

第1期ホームステイプログラム参加者・引率者名簿

<参加者> (参加者名はWeb上ではニックネームで表記しています)

氏名	学年
NON	高校1年
YUNA	高校2年
RIKO	高校2年
NAKO	高校2年
NANA	高校3年
CHIHO	高校3年

<引率者>

氏名		所属
中井 敏生	なかい としお	稲城市姉妹友好都市交流協会 海外交流委員会委員長
藤島 亮子	ふじしま りょうこ	稲城市姉妹友好都市交流協会 海外交流委員会副委員長

事前研修・事後研修カリキュラム

<第1回オリエンテーション・第1回事前研修>

2025年2月2日（日）：稲城市地域振興プラザ4階大会議室

時刻	プログラム	
9:50	受付開始	オリエンテーション (保護者+参加者)
10:00	挨拶とホームステイプログラムの概要説明	
10:20	アイスブレイク	
10:30	異文化コミュニケーションとは	
11:00	参加者に求められるもの	
	ホームステイに必要な力	
	事前活動について説明	
11:50	ランチタイム	第1回事前研修 (参加者のみ)
12:30	アイスブレイク	
12:40	自己紹介	
	ステイ中にやりたいことのシェア	
14:00	稲城・日本文化紹介 紹介イベントの企画 (INAGI DAY/JAPAN DAY)	
15:15	次回インフォメーション	
15:30	終了	

<第2回事前研修>

2025年3月30日（日）：稲城市地域振興プラザ4階小会議室

時刻	プログラム
9:50	受付開始
10:00	アイスブレイク
10:10	ケーススタディ
10:55	English Time
11:25	自己紹介アルバムのシェア
11:40	ステイ中にやりたいこと
12:30	ランチタイム
13:10	アイスブレイク
13:20	ホームステイの予備知識
13:45	訪問国について
14:20	稲城・日本文化紹介 紹介イベントの企画 (JAPAN DAY)
15:20	次回インフォメーション
15:30	終了

<第3回事前研修>

2025年5月11日（日）：稲城市地域振興プラザ4階大会議室

時刻	プログラム
9:50	受付開始
10:00	アイスブレイク
10:10	ケーススタディ
10:40	自己紹介アルバムのシェア
11:10	訪問国について
11:40	ステイ中にやりたいこと
11:50	ホームステイの予備知識
12:15	ランチタイム
12:50	アイスブレイク
13:00	English Time
13:30	稲城・日本文化紹介 紹介イベントの企画 (JAPAN DAY)
15:10	次回インフォメーション
15:30	終了

<第4回事前研修・第2回オリエンテーション>

2025年7月13日（日）：稲城市地域振興プラザ4階大会議室

時刻	プログラム	
9:50	受付開始	第4回事前研修 (参加者のみ)
10:00	English Time	
10:25	ケーススタディ	
10:55	JAPAN DAY 紹介方法の確認・練習	
11:55	フォスターシティ市長表敬訪問挨拶練習	
12:10	ランチタイム	
12:50	保護者入室	オリエンテーション (参加者+保護者)
13:00	参加者による 日本文化紹介/稲城紹介ビデオ 実演	
13:45	参加者 自己紹介アルバム 披露	
14:15	スケジュール・禁止事項 持ち物・渡航前情報 などの説明 (ハンドブックに沿った説明)	
15:30	今後の予定(壮行会・事後活動)説明	
15:45	ESTA申請(個別対応)、個別Q&A	
16:30	終了	

<壮行会>

2025年7月26日（日）：稲城市地域振興プラザ4階大会議室

時刻	プログラム
16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市姉妹友好都市交流協会会長あいさつ ・ご来賓ご紹介 ・ご来賓ごあいさつ(高橋稲城市長・坂田稲城市議会議長) ・ホームステイ事業概要紹介 ・参加者決意表明 ・記念撮影
17:00	終了

< 報告書作成・報告会準備 >

2025年9月28日（日）：稲城市地域振興プラザ1階ミーティングコーナー

時刻	プログラム
9:30	<ul style="list-style-type: none">・ホームステイプログラム全般に対するフィードバック・報告書作成・報告会に向けた準備
12:00	終了

< 報告会 >

2025年11月9日（日）：稲城市地域振興プラザ4階大会議室

時刻	プログラム
14:00	<ul style="list-style-type: none">・稲城市姉妹友好都市交流協会会長あいさつ・ご来賓ご紹介・ご来賓ごあいさつ（高橋稲城市長・坂田稲城市議会議長）・ホームステイ事業概要紹介・参加者による報告・質疑応答・記念撮影
16:00	終了

プログラム日程

日本時間	現地時間	活動内容
8/2 (土) 13:30 16:25		日本出発 ● 羽田空港 第3ターミナル国際線出発ロビー (3階) インフォメーションカウンター周辺に集合 ● 日本航空 JL002 便サンフランシスコ行きに搭乗
8/3 (日) 02:05	8/2 (土) 10:05	米国到着 (飛行時間: 9時間40分) ● サンフランシスコ空港到着 ● フォスターシティ (以下 FC) 姉妹都市協会関係者が出迎え、FC市へ移動 ● 歓迎式典とホストファミリーとの対面 ● ホストファミリー宅へ移動
	8/3 (日)	Sea Cloud Field Day@Sea Cloud Park ➢ ホストファミリーとFC 姉妹都市協会による Potluck Party (食事持寄パーティ) と稲城市の参加者による日本食の提供 ➢ FC市写真宝探しゲーム
	8/4 (月)	FC市長表敬訪問と市内でのアクティビティ ➢ 午前中は稲城市のパネル展示準備のために図書館へ ➢ 市長表敬訪問 (市役所) ➢ FCの同年代の学生によるフォスターシティの自転車ツアー (昼食付き) に参加
	8/5 (火)	Japan Sharing Day (Day Campに来ているFCの子供たちへの日本文化紹介) レクレーションセンタにてFCの子供たち (30~40名程度) に折り紙やカルタ (坊主めくり) などのゲームの紹介
	8/6 (水)	終日ホストファミリーと過ごす ➢ ホストファミリーとのラグーンボートツアー ➢ 夕方: Off the grid イベント参加 (Leo J. Ryan Parkでの家族向けイベントで音楽演奏や Food Truckが多数来るイベント)
	8/7 (木)	シリコンバレーへのツアー ➢ スタンフォード大学訪問 ➢ Google キャンパスツアーとランチ 夜: 社交イベント (同年代の学生との交流会)

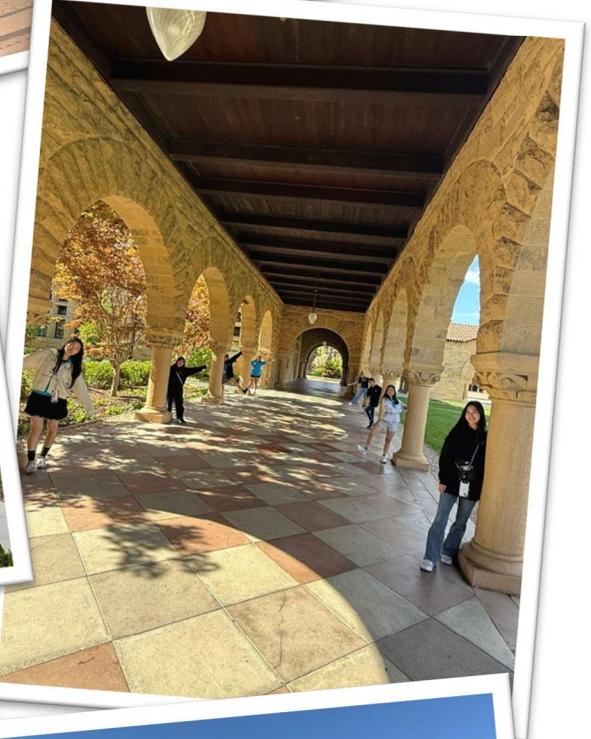
日本時間	現地時間	活動内容
	8/8 (金)	終日ホストファミリーと過ごす <ul style="list-style-type: none"> ➤ サンフランシスコへの観光 ➤ 夜はサンフランシスコ・ジャイアンツ vs ワシントン・ナショナルズ (MLB) の野球をサンフランシスコ・オラクルパークにてホストファミリーと観戦
	8/9 (土)	終日ホストファミリーと過ごす
8/11 (月) 04:25	8/10 (日) 12:25	米国出発 <ul style="list-style-type: none"> ● 空港までホストファミリーや関係者が送迎 ● 日本航空 JL001 便羽田行きに搭乗
15:05	23:05	日本到着 (飛行時間: 10時間40分) <ul style="list-style-type: none"> ● 羽田空港第3ターミナル到着 ● 通関後、国際線到着ロビー (2階) で集合、解散

ホストファミリー名簿

参加者氏名	ホストファミリー
NON	Baxter Family
YUNA	Brooks Family
RIKO	Wong Family
NAKO	Nipane Family
NANA	San Diego Family
CHIHO	Chua Family

引率者氏名	ホストファミリー
中井 敏生	Okamoto Family
藤島 亮子	Kimura Family

活動記錄



8月2日(土)

期待に胸を膨らませて、羽田空港に集合しました。チェックインを終了し、家族ともしばらくの間お別れです。休暇で渡米される高橋稲城市長とも搭乗ゲートでお会いすることができました。機材不良で予定より2時間遅れとなりましたが、羽田空港を無事出発しました。



サンフランシスコ空港に到着後は、ドキドキの入国審査。入国審査官との英語でのやり取りもなんとか終え、フォスターシティ姉妹都市協会の皆さんと落ち合うことができました。車でフォスターシティの小学校の体育館に移動し、音楽隊の演奏とウェルカムボードでの歓迎の中、ホストファミリーとのご対面となりました。

その後は各ホストファミリーのご家庭に移動し、いよいよホームステイの始まりです！



8月3日(日)

フォスターシティでの初めてのプログラムは、Sea Cloud ParkでのSea Cloud Field Dayでした。Potluck Party（食べ物を持ち寄るパーティ）ということで、各ホストファミリーと一緒に日本食（参加者：いなり寿司か焼きそば、引率者：白玉団子）を作りました。公園では、ホストファミリー対抗の公園内での宝探しゲームや、地元のサッカーチームの子供たちとの水風船の投げ合いゲームなどで楽しんだり、持ち寄った食事をホストファミリーの皆さんと楽しんだりしました。



8月4日(月)

フォスターシティの市民の皆さんに姉妹都市稲城市をアピールするために、フォスターシティ図書館で稲城市の紹介のパネルを作成・展示しました。



その後は市役所に移動し、Tracy Jimenezフォスターシティ市長ほか市議会議員の皆さんを表敬訪問しました。休暇で渡米中の高橋稲城市長にもお越しいただき、このホームステイプログラムを通じた、両市の益々の交流を確認することができました。参加者もこのプログラムに向けた決意を発表しました。



午後からは、事前研修で参加者の希望が多かった、フォスターシティ市内の自転車ツアーを行いました。フォスターシティの同年代の学生の皆さんにリードしてもらい、市内のサイクリングコースを自転車で巡って、街の様子を感じることができました。



8月5日(火)

“Japan Sharing Day”として、レクレーションセンターにてDay Campに参加しているフォスターシティの子供たちに、折り紙やカルタ（坊主めくり）などの日本のゲームの紹介を行いました。

参加者の皆さんは、日本から持参した浴衣に着替え、坊主めくりと折り紙の2つのグループに分かれて、それぞれのグループで子供たちへの日本文化の紹介に努めました。



8月6日(水)

終日ホストファミリーと過ごしました。

午後からはフォスターシティのラグーンを、ホストファミリーの皆さんと一緒に、ダフーボートと呼ばれる電動バッテリー式ボートに乗って巡るツアーを楽しみました。



ラグーンボートツアーの後は、Leo J. Ryan Parkで音楽演奏やFood Truckが多数来る、「Off the grid」と呼ばれるイベントに、ホストファミリーと一緒に参加し、現地の学生の皆さんやホストファミリーの皆さんとの交流を楽しみました。



8月7日(木)

シリコンバレーへのツアーに出かけました。

まずは、スタンフォード大学を見学しました。構内の幾つかのポイントを見学後、キャンパスショップでお買い物。次にGoogle社を訪問し、社員用カフェテリアで昼食を取り、グループに分かれてGoogle社にまつわるゲームを楽しみました。



夜は同年代のフォスターシティの学生の皆さんと、レーザータグと呼ばれるゲームと一緒に楽しみ、食事を取りながら色々な話をして過ごしました。



8月8日(金)

この日は終日ホストファミリーと過ごしました。

夜はサンフランシスコ・ジャイアンツvsワシントン・ナショナルズのMLB（野球）の試合を、サンフランシスコ・オラクルパークにてホストファミリーたちと観戦しました。

稲城市からの訪問歓迎メッセージがバックスクリーンに！



8月9日(土)

日本に戻る前日のこの日は、終日それぞれのホストファミリーと過ごしました。

8月10日(日)

フォスターシティでの最終日。ホストファミリーの皆さんに空港まで送っていただき、別れを惜しみました。中には涙が止まらなくなる参加者もいて、短い期間でしたが深い絆が育まれたことを実感する場面となりました。



出国手続きも終え、ホームステイ先での色々な思い出を胸に、帰国する飛行機へ搭乗しました。



8月11日(月)

飛行機から降りたとたんに、大変な蒸し暑さを感じ、日本へ帰ってきたと実感。
ご家族の出迎えを受け、無事に全日程を終了しました。



参加者報告書

NON

YUNA

RIKO

NAKO

NANA

CHIHU

中井 敏生（引率者）

藤島 亮子（引率者）

NON（高校1年）



私は初めての海外が、このプログラムのアメリカで、心配なことや楽しみなこと不安なことたくさんの気持ちがありました。

まず初めには、実際にホストファミリーと対面した際上手く英語が話せるかとても心配でした。元々英語がすごい話せる訳でもなく、少し英語が話せるくらいでした。

ホストシスターやブラザーはとても話すのが早くて聞き取るのが大変でしたが、英語翻訳を使って伝えてくれてだんだん耳が慣れていきました。

本当はブラザーは二人いて、一人はスカウトのキャンプに行ってしまうと、もう一人はシャイな方でずっと部屋にこもっていました。そこでホストファミリーが、子供たちみんな反抗期で、同じような気持ちだから大丈夫だと励ましてくれました。ホストファミリーはほんとに優しく、ゆっくり喋ってくれて、分からなかったらジェスチャーや翻訳で伝えてくれたり、自分が英語を理解できなかったのは申し



訳なかったけど、とてもいい経験になりました。ホストマザーは毎日あった出来事を伝えると、とても嬉しそうに良かったね！など色々声をかけてくれました。とてもご飯が美味しく、日本に帰ってきた今でも、またあのご飯が食べたいと思っています。ホストファミリー・マザーはとても優しく、英語をもっと話せるようになってまた沢山お話をしたいです。



毎日がとても楽しい日々で充実した10日間を過ごせました。ホームステイ中に出会った友達とは、インスタを繋いだり、LINEを繋いだり、今でも交流があります。日本では体験できないことがぎっしりと詰まっていて、レーザー銃をしたり、海外の海に行ったり、綺麗なウッド公園に行ったり、自分の好きなスヌーピーの博物館に連れて行ってくれたり、海外のお寿司を食べたり、ボートに乗ったり、スーパーに行ったり、ほんとにホストファミリーイベントに携わってくれた皆さんには、いい経験

をさせていただいたと心から思います。英語という言語の壁がある中で、私は喋れないなりに、身振り手振りで物事を伝えると言うことと、アメリカの素晴らしさ文化の違いなど、沢山学ぶことが出来ました。最後のお別れの時には、帰るのが嫌で泣いてしまうほど、ほんとにいい街で温かい人が多いことを改めて考えさせられました。英語を頑張って伝える、身振り手振りで伝える、籠らずに伝えるということを意識してまたアメリカに行きたいと思います。

話は変わりますが、このプログラムでたくさんの方々にお世話になり、慣れない英語ではありますが、沢山話しかけてくださった方々や気にかけてくれたホストファミリー、このプログラムを支えてくれた稲城市やフォスターシティの方々に感謝でしかありません。この経験で自分の視野が広がり、学校生活でもこの経験が役に立っています。中々できない体験だったので新しい自分を出すことができました。次は、次年度の方々のサポートをしたいと思います。ありがとうございました。



<Baxter Familyからのメッセージ>

We felt that hosting was simply a good thing to do to share our culture, but Non made it a truly special experience for our kids. She was a wonderful guest. While she was a bit shy at the start, she warmed up nicely once she settled in. Our favorite discovery was her personality—she has a great sense of humor! We loved joking around with her once she opened up.

私たちは、ホストをすることは自分たちの文化を共有するための「良いこと」くらいに思っていたのですが、Nonのおかげで、子どもたちにとって本当に特別な経験になりました。彼女は素晴らしいゲストでした。最初は少し恥ずかしがり屋でしたが、慣れてくるとすっかり打ち解けてくれました。一番の発見は、彼女の人柄です——とてもユーモアのセンスがあるんです。心を開いてくれてからは、一緒に冗談を言い合う時間がとても楽しかったです。

<保護者からのメッセージ>

2023年7月15日、フォスターシティ市のサッカーチームが来訪しました。稲城第一中学校の体育館で歓迎セレモニーが開催され、娘は稲城第一中学校の吹奏楽部メンバーとして歓迎セレモニーに参加しました。笑顔の絶えないフォスターシティ市の同世代の女の子達と友達になりたいと思ったそうです。

翌年11月にホームステイプログラム一期生の募集が開始。応募した切っ掛けは、フォスターシティ市で今後も繋がっていける友達やファミリーを作りたいと言う15歳らしい純粋な理由からでした。高校受験の直前でしたが、本人の考え方と行動力を信じエントリーした所、無事に選考通過となりました。

二期生以降で迷われている方が居ましたら、今だけを考えず先を見てエントリーして頂けたらと思います。間違いなくお子さんの世界が広がります。事前研修では、自ら考え行動する力が養われたと思います。一番末っ子の娘が担当させて頂いたのは、Tシャツのカラーとデザインでした。イラストが大きすぎて嫌だと言われないかな？等悩んで配置を決めたりと、今となってはとても良い思い出の品です。

ホストファーザーさんは、我が娘の様に接して下さい、誕生日が近い娘の大好きなスヌーピーのシュルツミュージアムに連れて行って、サプライズを用意してくれました。とても大切に下さって、伝わりにくい言葉は分かりやすく伝え、しっかりコミュニケーションが取れる様に対応をして頂いた事に感謝の気持ちでいっぱいです。

YUNA（高校2年）



今回のフォスターシティ市のホームステイプログラムでは、ホストファミリーや同年代の方たちをはじめとした多くの方々との交流や貴重な経験を通して、様々な発見をし、多くの力や考えを得ることができました。その中には、実際に現地に行くまで全く想像していなかったことや、今後の自分について改めて考えを深めることができるような大きな気づきもありました。

9日間という限られた期間の中で、悔いのないよう沢山の挑戦をし、自分なりに精一杯学び、楽しむことができました。

<現地での生活と活動>

滞在中はホストファミリーのもとで生活し、毎日様々な人と交流しながら日々を過ごしました。最初の数日は時差や環境の変化に戸惑い、思うように食事が取れなかったり眠れなかったりと、不安な時間を過ごしました。しかし、自分の正直な気持ちをホストファミリーに伝えたところ、温かく受け止めてくださり、適切な対応や励ましをもらえたことで、心が少しずつほぐれていきました。

その他にも、ホエールウォッチングや地域との交流など、日本ではなかなか体験できない活動を通じて、アメリカという国の自然や人々の温かさ、多様性に触れることができました。ホストファミリーとの何気ない会話や、夕方と一緒に散歩をした時間など、小さな出来事のひとつひとつが今では大切な思い出です。



<学び、気づき>

私は、現地で英語力を高めたいという思いからこのプログラムに参加しました。実際に新しい英語の表現や言い回しなど多くの学びを得ることができました。しかし、ホームステイ中は、英語を学ぶだけでなく、現地の文化に触れ様々な価値観を知ることがいつのまにか大きな目的となっていました。言語はあくまでツールであり、異文化を持つ人々とコ

コミュニケーションをするうえで大切なことは、他にも様々な方法があることを現地で実感することができました。



また、このホームステイを通して得られた大きな学びは、「自分の意思を明確に伝える力」と「積極的に行動する姿勢」の重要性です。日本では「察する」文化が根づいており、自分の意見をはっきりと言う機会が少ないと感じていました。しかしアメリカでは、自分の考えや気持ちを相手に正確に伝えることが、良好な関係を築くために不可欠であると日々実感しました。

実際に、自分の困っていることや気持ちを伝えることは、はじめは勇気がいりましたが、現地の方々はどんな時でも温かくサポートしてくださいました。遠慮せずに言葉にすることで、お互いに気持ちよく過ごせる関係が築けることを知り、最終的には自信をもって積極的に会話を楽しむことができました。

現地のマクドナルドはモバイルオーダーが主流であった中、自分の口から英語で直接注文したいとホストファミリーに伝えました。彼らは終始とても温かく見守ってくれたし、初めて英語で注文して食べた味は一生忘れられないと思います。このように、些細なことではありますが、当時勇気を出して意思表示をして行動した経験ひとつひとつが今でも強く印象に残っています。

また、文化を伝えあうことのおかげのなさも実感しました。そして、現地の方に日本の文化や稲城市の魅力を紹介する活動を通して、日本や稲城市がさらに好きになり、日本国民として誇りを持つことができました。その中で特に印象に残ったことは、ホストファミリーに日本の手遊びを教えた時です。特にファミリーの子供たちが本当に気に入ってくれて、最終日のお別れの時までずっと一緒に遊んでいるほどでした。ルールを英語で説明するのはかなり難しかったけど、その日からファミリーがずっと楽しんで遊んでくれている姿を見て、文化の共有の素敵さや楽しさを実感しました。また、自分から日本文化を共有できたことは、自分の自信につながったし、勇気を出してほんとはよかったですなと思いました。



<課題と今後の目標>

反省点としては、英語力に関してまだまだ不足を感じる場面が多くあったことです。簡単な会話やリアクションで何とか意思疎通はできたものの、より深い内容を伝えるには語彙や表現力が足りないと痛感しました。相手の言っていることは理解できても、自分の言葉で返すとなるとうまく話せないことが多く、悔しさを感じることもありました。

今後は、日々の英語学習をより実践的なものにしていくとともに、自分から積極的に話しかけたり、会話のきっかけを作ったりする力を伸ばしていきたいと考えています。そして、将来的にまた海外に行く機会があれば、今回以上に深く人と関わられるよう、努力していきたいと思えます。

<最後に>



ホストファミリーは、初めての海外生活で不安だった私を温かく迎えてくださり、まるで本当の家族のように接してくれました。少し気をつかってしまった場面もありましたが、「あなたは家族の一員だから」と言ってくれた言葉に、深い安心と感謝を覚えました。今でも定期的に連絡を取り合い、異文化交流を続けています。

そして、沢山のご協力や温かい支援をしてくださったホストファミリーをはじめとした、稲城市姉妹友好都市交流協会の方々、5人の仲間たち、家族には本当に感謝でいっぱいです。かけがえのない宝物のような経験や発見と共に、更に成長した自分で無事帰ってくる事ができました。

短い期間ではありましたが、このホームステイは私にとって、これからの人生に大きな影響を与えてくれる経験となりました。「伝える勇気」と「踏み出す力」、そして「異文化交流の楽しさ」を得た今、自分の世界が確実に広がったと感じています。これからも今回で得た学びや思い出を忘れずに、自分が社会の一員として貢献できることや役割を精一杯果たしていきたいです。

<Brooks Familyからのメッセージ>

Hosting Yuna was an absolute pleasure. We were looking to share our lifestyle and learn about Japan, and it turned into a genuine connection for our children. Yuna was amazing—she adapted to our family dynamic instantly. It's actually impossible to choose just one favorite memory because she was such a great sport about everything we did. Her positive attitude made every moment a joy.

Yunaをお迎えできたことは、本当に嬉しい経験でした。私たちは自分たちの生活スタイルを共有し、日本について学びたいと思っていましたが、それが子どもたちにとって本物のつながりへと発展しました。Yunaは本当に素晴らしく、家族の雰囲気すぐに溶け込んでくれました。どの思い出が一番かなんて選べないほど、どんなことにも前向きに楽しんでくれました。彼女の明るい姿勢のおかげで、どの瞬間も喜びに満ちていました。

<保護者からのメッセージ>

今回子どもがホームステイプログラムに参加させていただいて、親として1番感じた事は感謝の気持ちです。稲城市、交流協会の方々には、事前研修から引率まで、确实できめ細やかにご対応いただき、心から安心して子どもを送り出すことができました。また、フォスターシティの方々には、様々な充実したプログラムをご用意いただきました。そしてホストファミリーには、家族の一員としてあたたかく受け入れてくださり、素晴らしい経験と特別な時間を与えていただきました。

このように、たくさんの感謝の気持ちを強くもったのには、何より帰国した子どもが喜びと自信に溢れていたからです。事前研修を経て、実際に行って、見て、触れて、感じて、それら全てを体いっぱい吸収してきた！というエネルギーを強く感じられました。このホームステイを通して、たくさんのことを学び、気づき、大きく成長しました。また大切な出会い、家族もできました。これらはこのような機会がなければ得られないものです。ホームステイプログラムの第一期生、そのめぐり合わせへの感謝、そしてそのためにご尽力くださった方々に心より感謝申し上げます。

この素晴らしい経験と感謝の心を忘れずに、この先の進路に自信をもって向かっていてほしいと心より願います。

RIKO（高校2年）



8/2～8/11に私たち6人と引率の方2人の計8人で稲城市の姉妹都市であるアメリカ、フォスターシティ市へホームステイに行きました。家族と海外旅行に行ったことはありましたが1週間もの間、初対面の人の家にお泊まりすることは初めてでした。基本的に全てが初めて状態で右も左も分からないまま、異国の地で1人で過ごしていくことに不安を感じていましたが、行く前と行った後で考え方が変化し

たことが多くあります。

ホームステイに行く前までは自分の英語力に不安があったり、それ以前に人とコミュニケーションを取ることに對しての不安が大きかったりしました。実際にフォスターシティで過ごしている間でも、家族や同年代の友達の中で自分の意見を言う機会が多くて緊張しました。私はもともと意見を言うことが得意ではなく、他の人に合わせながら生活していたため、自分の意見を否定されるのではないかと不安になっていました。しかし、自分が言った話に対して、誠心誠意耳を傾けて聞いてくれ、すごく安心したと同時に、自分を過小評価しすぎないようになれました。時には謙遜することも大切ですが、自分のことや意見をはっきりと言う力の大切さを学ぶことができました。

それでも私は自分の意見ではなく、周りに流されてしまうことがありました。自由行動の時間で何も計画を立てていなかったため、その日その時にちょうど目の前にあった楽しそうなことに飛びついてしまったこともありました。自分はこのようにしたいと事前に決めて、なるべくその通りに動けるように事前準備などを怠らないようにしたいと思いました。

人がみんな優しいことを10日間で肌で感じました。現在政治状況としてアメリカファーストな考えの人が多くは思っていたと思いますが、私のホストファミリーや他の家族、地域の方々含めホームステイ先で出会ったたくさんの人々は、私たちがいかに楽しく過ごせるか、ということを考えてくれました。





6日目のスタンフォード大学、Google見学の日に「いろいろなことをしてもらっているばかりで、優しさやホストファミリーらしいことなど何一つ返せていない」と思い泣いてしまったことがありました。しかし、それをきっかけに自分が思う他の人に対してできることは何か考えて、後半の日程は過ごせたのではないかと思います。実際に、お家で日本食を作ったり、家族と折り紙をしたり、自分の学校の話をしたりして「私が来てよかった」と思ってもらえるように自分のできることはしたつもりです。

アメリカの人たちの考え方と自分の考え方がどこまで違うのか、少し怖いところも大きかったのですが、英語と日本語、という話している言語がただ違うだけで、本当に考えてることや笑いのツボなどが一緒だと感じました。違う国の人だから、とかで自分で壁をつくらなくて、とにかく話しかけに行くことが大切だと思います。

自分がわからないことを素直に話せば、必ずどうにかして意思疎通をしようと力になってくれました。わからない、とか言ったり、わからない単語が出てきた時に、分からなさそうな顔をしてみたり、知らない単語をリピートしたりして、わからないことのアピールをすることで、翻訳を使いながらどうにか話そうとしてくれます。だからと言って、相手が理解してくれるのを待つのではなく、日頃から話す練習をすることが大切だと私は思います。相手の言葉にすぐに反応できるように、瞬発力を鍛えていこうと思います。



最後になりましたが、このような素晴らしい企画を考えて下さった稲城市姉妹友好都市交流協会とフォスターシティ姉妹都市協会の皆さん、事前研修から現地引率、事後学習まで様々な面で支えてくださった中井さん、藤島さん、私のことを快く受け入れてくれて毎日の送り迎えや「リコは家族だよ」と言ってご飯などの様々なことを用意して下さったホストファーザーとホストマザー、今日あったことを話してくれたり「プレゼント」と言って描いた絵を渡してくれたり一緒に筋トレやバスケットなどをしたホストブラザーの2人、フォスターシティで出会った全ての人、そして「このようなプログラムがあるよ」とこのホームステイプログラムを見つけてくれて、それ以外のことについても色々支えてくれた日本での家族、この場を借りて全員に感謝します。本当にありがとうございました。まだまだ未熟ですが、これからは自分以外の人に手を差し伸べることができるようになります。

<Wong Familyからのメッセージ>

We are so happy we decided to open our home to Riko. It was important to us to support the community organization, but it was also a fantastic way for our children to experience a new culture right at home. Riko was a delight—she fit into our daily rhythm effortlessly and was such an active participant in family life. We have to say, the night Riko prepared a special traditional Japanese dinner for us was a moment we won't forget. We loved having her!

Rikoをお迎えすることに決めて、本当に良かったと思っています。地域の団体を支援することは私たちにとって大切でしたが、同時に子どもたちが自宅にいながら新しい文化を体験できる素晴らしい機会にもなりました。Rikoは本当に魅力的な存在で、私たち家族の生活リズムに自然に溶け込み、家庭生活にも積極的に参加してくれました。そして何より、Rikoが特別な和食の夕食を作ってくれた夜は、忘れられない思い出です。彼女と過ごせて、私たちは本当に幸せでした！

<保護者からのメッセージ>

娘がホームステイプログラムに参加する機会をいただき、現地での貴重な経験を通じて大きく成長することができたと感じています。市長さんへの表敬訪問では、温かい歓迎を受けたことに感動した様子でした。ホストファミリーの皆さんもとても親切で、特に小さな弟たちと一緒に過ごした時間が楽しかったようです。家庭の中での交流を通して、言葉だけでなく心の通じ合いを実感できたように思います。

スタンフォード大学見学やGoogle訪問では、現地の学生や社会人の方々と直接話す機会に恵まれ、将来について考えるきっかけにもなりました。また、MLBの試合観戦では、スタジアムの迫力や歓迎メッセージにとっても驚いたと話していました。

毎日が発見の連続で、あっという間に帰国日になっていたと言っていたほど、充実した日々を過ごせたようです。離れて暮らす中で、子どもの自立心を強く感じました。写真に写る笑顔からも、安心して過ごせたことが伝わってきました。このような素晴らしい機会をくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

NAKO（高校2年）

私は今年の夏、フォスターシティ姉妹都市交流に参加させていただきました。そこでは、現地の家庭にホームステイさせていただき、自分たちが練った企画や、フォスターシティ姉妹都市協会の方が用意してくださった企画を体験しました。たくさんの学びがあり、私たちが大きく成長できるような交流でした。



私は英語を話すことが得意というわけではなく、ホストファミリーや現地の方たちとうまくコミュニケーションが取れるかとても不安でした。そんな中、私がステイした家族はインド人の家庭で、ホストマザーとホストファーザーは、私が学校で習っているアメリカ英語ではなく、いわゆるイギリス英語を話していました。また、家族内の日常会

話は基本的にヒンディー語で、初日は英語とヒンディー語の区別もつかず、ほとんど何も聞き取れずに翻訳をたくさん使ってもらい、とても悔しかったです。しかし、次の日から少しずつ英語がずっと頭に入ってくるようになって、英語とヒンディー語が区別できるようになりました。自分の英語力に不安があっても、実際に環境を変えて実践すると身につくものもあるのだなぁと感じました。

英語でコミュニケーションが取れるか不安だったけど、ホストファミリーや周りの方々の優しさで、翻訳も使いながらうまくコミュニケーションを取れたと思います。英文法は中学知識でなんとかなるし、英単語は自分が知っているものをうまく組み合わせればコミュニケーションが取れると感じました。

今回の交流を通して一番自分が成長したと思えたのは、言語はあくまで人と人をつなぐ道具である、ということを感じられたことです。私たち日本人も、今回関わったフォスターシティの人たちも、同じように生活し、考える、人間です。言語という壁はあっても、文化や生活は違って、考えていることは同じということを感じられた気がします。日本で外国人と話す機会というと、学校のALTの先生や、私が小さいころに留学生を受け入れた時くらいしかないように感じます。そのような機会に関わってきた人たちは、自分よりもすごく年上で、小さいころの自分とは根本的に考え方やモノの見方が大きく違います。しかし、今回の交流



では、同年代の高校生と交流する機会がありました。そこで初めて、英語はあくまで会話の手段だということを感じました。話す言葉は違って、考えていることは同じで、それを共有するために英語があり、英語を学ぶのだと感じられました。海外に友達ができてすごくうれしかったし、自分の成長が感じられて楽しかったです。これからも、英語を学ばされるものではなく、自分で使うものとして捉えて、学び続けていきたいです。

フォスターシティには様々な文化を持った人たちがいました。日本では、母国語が違くと少し壁を感じることもあったり、どこか遠い人のように感じてしまうことがあります。フォスターシティの人たちは、どこの国の人か、ではなく、相手を一人の人間として捉えているような気がしました。多文化共生を色々な場面で感じました。私がステイさせてもらったインド人家庭では、お母さんがベジタリアンだったり、インドの文化を紹介してもらったり、インドの伝統料理を作ってくれたりして、家庭内でも文化交流ができました。私も日本の文化として、折り紙を教えたり、ホストファミリーの名前を漢字で書いたり、ホストに浴衣を着せたりと、たくさんの文化交流をしてきました。



また、私は今回の交流を通して、自分から行動することの大切さを学びました。待っているだけでは何も始まらず、自分から楽しむ姿勢がとても大事だと思いました。また、笑顔でいることで、自分の楽しさを相手に伝えられたと感じています。言葉で伝えるのが難しい場合は顔で伝えるという手段もあるのだと学びました。言葉が通じなくても、自分から話しかけるのが苦手でも、会話し

たいという意味を、わからないことを聞き返したり笑顔で

対応したりすることで相手に伝えればうまくコミュニケーションが取れることもあると分かりました。

今回の交流で、私は特に大きなトラブルもなく、楽しく安全にホームステイすることができました。最初はホストファミリーの話す言葉が何もわからなくて焦ったけれど、ホストファミリーの助けもあって楽しく過ごせたとし、困難を乗り越えられたという達成感もあります。ホームステイ以外のフォスターシティやサンフランシスコでの交流も、フォスターシティ姉妹都市協会の方々が計画してくださり、とても充実した毎日を過ごすことができました。今回、フォスターシティ姉妹都市協会の方方や現地の高校生が、たくさん私たちのために準備をしてくれたのを感じました。フォスターシティの方々が稲城を訪れるときは、自分も計画や交流に積極的に携わり、たくさん恩返しをしていきたいと思います。

このような機会を設けていただき本当にありがとうございました。この交流が今年だけでなく、長く続き、たくさんの稲城の子供たちが素晴らしい交流を体験できることを願います。本当にありがとうございました。

<Nipane Familyからのメッセージ>

What a rewarding experience! We wanted to support the Sister City Association and give our kids a memorable cultural exchange, and Nako was the perfect guest. She was a little quiet when she first arrived, but it was wonderful to watch her blossom and warm up to us. Once she got comfortable, her fun side really came out! We will definitely miss our evenings together doing origami and making dance videos with the whole family.

なんて素晴らしい経験だったのでしょ！私たちは姉妹都市協会を支援し、子どもたちに忘れられない文化交流の機会を与えたいと思っていましたが、Nakoはまさに理想的なゲストでした。到着したばかりの頃は少し静かでしたが、次第に心を開き、打ち解けていく姿を見るのは本当に嬉しいものでした。Nakoがリラックスしてからは、彼女の楽しい一面がどんどん表れてきました！家族みんなで折り紙をしたり、ダンス動画を撮ったりしたあの夜の時間が、これから恋しくなると思います。

<保護者からのメッセージ>

稲城市の姉妹都市交流で大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

引率して下さった中井さんと藤島さん、企画や準備に携わっていただいた交流協会の方々、一緒に行ったメンバーの方には本当に感謝しています。

娘は今回の姉妹都市交流に、ホストファミリーや現地の方としっかりコミュニケーションをとるという意気込みを持って参加しました。初めは家庭内で話されるヒンディー語やイギリス英語（ホームステイ先がインド系だったので）に戸惑いもありましたが、積極的にコミュニケーションを取ることで馴染むことができましたようです。

また、たくさんの新しい体験をできたことがとても楽しかったようです。インド民族衣装のサリーを着せてもらったり、メヘンディ（ヘナという植物の粉で模様を描くボディアート）を腕にしてもらったりしました。ホームステイ終盤にはホストファミリーと私たちがビデオ電話をさせていただき、温かい雰囲気を感じることができました。

帰国後の娘は、海外に対する恐れやしり込みがなくなり、いい意味で図太くなったと思います。娘にとって今回の姉妹都市交流は、人生の選択肢を広げる素晴らしい経験だったのではないかと思います。

NANA（高校3年）



この度稲城市の姉妹都市であるアメリカ、カリフォルニア州にあるフォスターシティ市へ一週間ホームステイをさせていただきました。私個人としては初めての海外で緊張や不安も混じりながらの渡米でしたが、事前研修含め、滞在中に様々な学びを得ることができ、自分自身を変えるきっかけにもなったと感じています。

プログラム期間中は、ホストファミリー含め同世代の子から大人の方まで様々な現地の方と関わる機会があり、普段は内向的な性格ですが自分なりに積極的になり、自ら名前を聞きに行ったり積極的に質問をするなど話を広げた事により、沢山の現地の方々とお話することができ、ホストファミリーとは帰国後も定期的にビデオ通話をするなど関係を続ける事ができ、自分の殻を破り積極的になることが、出会うことのできた縁を深める上で重要なきっかけになることを学びました。

また、今回のホームステイを通してフォスターシティ市、アメリカの魅力を発見することができたとともに稲城市、日本の良さを再確認する機会になったとも感じています。期間中は日本や稲城の文化を現地の方に紹介する機会を設けていただき、その際に日本や稲城に興味を持ってくださる方が大勢いた事も印象に残っていますし、ホストファミリーに次回日本に行く機会があったら稲城市に遊びに行きたいと言ってくださり、稲城市の魅力が伝える事ができ、嬉しく感じたことを覚えています。また、フォスターシティ市は稲城市のように自然豊かな市で、稲城で生まれ育った私にとって非常に心地の良い場所でしたし、アメリカの名門大学であるスタンフォード大学への訪問や、現地での野球観戦等を通して、アメリカの生活を垣間見る事もでき、アメリカや海外に興味を持つきっかけにもなり、また日本との違いも肌で感じる事ができたと感じています。



日本の文化を紹介する一環として現地の子供達に向けてJapan Sharing Dayという機会を設けていただき、そこでの企画をホームステイの半年前から行っていた事前研修を通して構想していて、一からなにかを企画することは私としては初めての経験だったので企

画をすることの難しさ、当日に機転を利かせる事の大切さを学ぶことができたと感じています。戸惑う事も多かったのですが、5人の仲間と協力しながら当日やり遂げる事ができ、非常に良い経験になりましたし、参加してくれた子どもの一人がまた来てねと言ってくれた事がとても嬉しくて印象に残っています。



私としては初めての海外、ホームステイだったので正直とても不安だったのですが、とても温かいホストファミリーに恵まれ、帰国前にはまた家においてねと何度も言ってくださった事が非常に嬉しかった事を覚えています。私のホストファミリーはフィリピン系アメリカ人の方で、ホストファーザーがフィリピンの文化は食べ物と家族なんだと言っていた通りすごく家族を大切に思っていて、

滞在中は私自身もホストファミリーの親戚の集まり等に呼んでくださったり、親戚の方々が私の帰国前にお別れを言いを訪ねてきてくださったり本当に家族の一員のように接して下さり、滞在中は両親に連絡することも忘れるくらいホストファミリーの家族の一員として過ごすことができ、一週間という短い期間での滞在ではありましたが、私の中では第二の故郷のようなとても大切な場所になりました。

初めての経験ばかりだった一週間でしたが、ホームステイプログラムに引率して下さった2名の方を初め事前研修で関わってくださった方、事前の準備などサポートをしてくださった家族、現地で支えてくれたホストファミリーの皆様やプログラム中行動をともにして下さった姉妹都市協会の方々には感謝のきもちでいっぱいです。今回のプログラムを通じて、実際に異国の地に行き文化や違いに触れる事はネットが普及している昨今であってもかけがえない経験であるということ学びました。私が実際にフォスターシティ市を訪れて沢山の魅力を知ることができたように、フォスターシティ市の方々が稲城市にお越しになった際にはまた稲城市に来たいと思っただけのように、また三年ほど前から始まったフォスターシティ市との姉妹都市関係が続けられるように今後も微量ながら貢献していきたいと思っています。



<San Diego Familyからのメッセージ>

We had a blast hosting Nana! We wanted to support the local exchange program and show off our local culture, and Nana fit seamlessly into our plans. She bonded beautifully with our two girls, and playing tourist was so much fun—especially taking her up to San Francisco for a Giants game. Showing her around the Bay Area was a fantastic experience for everyone involved.

Nanaをお迎えできて、本当に楽しい時間を過ごすことができました！地域の交流プログラムを支援し、私たちの地元の文化を紹介したいと思っていましたが、Nanaはその計画に見事に溶け込んでくれました。彼女は私たちの2人の娘とすぐに仲良くなり、一緒に観光気分過ごす時間はとても楽しかったです。特に、サンフランシスコへ行ってジャイアンツの試合を観戦したことは最高の思い出になりました。バイエリアを案内することは、関わった全員にとって素晴らしい経験でした。

<保護者からのメッセージ>

この度は、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

昨年、市民祭でこの企画のチラシをいただき、海外にいき、たくさん交流をしたり、今まで学んできた英語を活かして何かをやり遂げたいという娘の願いが叶うのではと、私から勧めて志望させていただきました。

準備期間では、交流協会の方々のサポートのお陰で、自ら何をしたらよいか、地元稲城市についても学ぶ機会をたくさん与えていただき、自分を見つめ返したり、積極的に学んだり、とても成長出来たと思います。

帰国してからは、とても視野が広がって、特に、人種や国によっての色々な違いに以前より目を向ける事ができて、更に海外で活躍したい気持ちが強くなったように感じます。

これから、大学生になり将来を考えた時に、必ずやこの体験が生きる事と思います。

CHIHO（高校3年）



1. はじめに

この一週間のホームステイは、語学力の向上だけでなく、アメリカの文化、特に現地の人々の「生き方」や「価値観」を肌で感じ、理解することができました。異国での生活を通し、固定観念にとらわれない柔軟な思考を養うことができたと思っています。私がフォスターシティの人々との交流から得た「三つの大きな学び」についてまとめます。

2. 第一の学び：オープンなコミュニティ

アメリカでの生活で最も衝撃的だったのは、人々の持つ「他者へのオープンさ」でした。

2-1. 言葉の壁を越える繋がり

当初、英語でのコミュニケーションに不安がありました。ですが、例えばスポーツの場面では、言葉が分からなくても、ジェスチャーや表情、そして熱中する姿勢だけでコミュニケーションが成立することを実感しました。

「Nice to meet you. I'm Chiho!」と挨拶を交わすだけで、年齢や性別に関係なくすぐに打ち解けられる空気感があり、名前を教え合うという行為そのものに、信頼と歓迎の気持ちが含まれていると感じました。見知らぬ人同士でも互いに興味を持ち、警戒心を持たずに受け入れる姿勢こそが、彼らのコミュニケーションの土台であると学びました。

2-2. 隔たりのない人間関係と自由

日本では、訪問時に「お邪魔します」と遠慮する文化がありますが、ホストファミリーの家では、友人の友人が突然来ても、皆が自然と迎え入れる光景を何度も目にしました。これは、人間関係に「内」と「外」の明確な隔たりのないことの現れだと感じました。

また、近所付き合いが非常に濃密であることも印象的でした。「デリック（ホストファザー）はいい人だよ!」といったように、近隣住民がお互いをよく知り、信頼しているコミュニティが存在しています。そして、家の前に



バスケットのゴールが設置され、道路でバスケットをしても咎められない「自由さ」も、他者を信頼し、生活のテリトリーを共有している文化から来ていると感じました。

3. 第二の学び：多言語・多文化が共存する多様性のリアル

アメリカの多様性を、ホームステイ期間の生活のあらゆる場面で身をもって感じる事ができました。



3-1. 「外国人」という概念の不在

驚いたことに、私が「ホームステイをしに来た」と伝えない限り、周囲の人々は私を特別な「外国人」として扱っていませんでした。これは、街に様々な人種やルーツを持つ人々が生活しているため、「見た目の違い」が「異質さ」に繋がらない社会環境があるからです。この経験を通して、多様性とは単に多くの人種がいることではなく、互いの違いを当たり前の前提として受け入れている状態なのだと、深く理解しました。

3-2. 多言語と多文化への深い理解

ホストファミリーを含め、周囲には英語だけでなく、日本語、スペイン語、中国語など、複数の言語を話せる人が多くいました。これは、彼らのルーツや、多様な背景を持つ友人との交流によって培われたものです。様々な国にルーツを持つ人々と交流し、それぞれの文化や価値観を教えってもらう機会に恵まれ、教科書では学べない生きた異文化理解が深まりました。特に、思っていた以上に日本のお店や、日本語を話せる人が多く、日本の文化が根付いていたことも大きな発見でした。



4. 第三の学び：生活スタイルに見る「自立と自由」

日常生活の些細な違いの中に、アメリカ社会の価値観、特に「個人の自立」と「自由」が強く表れていました。

4-1. 高校生に見る「個人の責任」

ホストファミリーの高校生は、自分の生活や行動に対して責任を持ち独立しており、両

親も子供の自由を尊重しているように感じました。自由と責任は切り離せないものであると改めて感じました。子供だからと遠慮することなく自分の意見を表明する姿勢は、大人と子供の間に明確な隔たりがない社会性とも繋がっているように思います。この気づきは、自由を求めるだけでなく、自分の行動は自分で責任をとれるよう努力していきたいと考えるきっかけとなりました。

また、私たちのために、イベントの企画や進行、一緒に行動してくれた現地の高校生に、リーダーシップ性、自主性をとても感じ、同じ高校生として刺激される部分が多く、見習いたいと強く思いました。

5. 最後に

特に、人々が持つ自信ある態度と、知らない人でもウェルカムする姿勢が、活発なコミュニケーションと自由な社会を築いているのだと痛感しました。

一方で、今回の経験を通し、今後の明確な課題も見つかりました。先ほど述べたように、スポーツや挨拶などの非言語コミュニケーションで初期の繋がりは持てましたが、より親密な関係（彼らの考え方、ユーモア、悩みなど）を深く理解し、自分の複雑な思いを伝えるためには、やはり英語の習得が不可欠であると強く感じました。言語の壁が原因で、「もっと仲良くなれたのに」という後悔がいろいろな場面で残ったので、英語を上達させて、またフォスターシティを訪れてより深いコミュニケーションをとりたいと考えています。

今後は、この経験を活かし、新しい環境や初対面の人々に対しても、恐れずに自分から心を開き、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を実践していきます。そして、実践的な英語の上達をめざして、異なる文化や意見を持つ人々との交流を歓迎し、多角的な視点から物事を考える力を養っていきたいと考えています。

最後に、温かく私を受け入れてくれたホストファミリーやフォスターシティの方々、このような機会を用意して下さった稲城市の関係者の方々に心より感謝申し上げます。



<Chua Familyからのメッセージ>

Our time with Chiho was truly unforgettable. We originally joined the program to bridge the gap between Foster City and Inagi and to expose our children to Japanese culture, but Chiho gave us so much more. She didn't just stay with us; she became part of the family immediately and was eager to join in on every activity. The absolute highlight was watching her take over the kitchen to cook for us, teaching us all about her favorite local foods. We are so grateful for the experience!

Chihoと過ごした時間は、本当に忘れられないものになりました。私たちは当初、フォスターシティと稲城の交流を深め、子どもたちに日本文化を体験させたいという思いでプログラムに参加しましたが、Chihoはそれ以上のものを与えてくれました。彼女はただ滞在しただけではなく、最初から家族の一員のように溶け込み、どんな活動にも積極的に参加してくれました。そして何よりのハイライトは、Chihoがキッチンを任せられ、私たちのために料理を作りながら、彼女のお気に入りの地元料理について教えてくれた時間です。この経験に心から感謝しています！

<保護者からのメッセージ>

この度は稲城市の姉妹都市であるフォスターシティへのホームステイプログラム第一期生として、参加させていただき誠にありがとうございました。今回のホームステイプログラムは、参加して終わりではなく、今後もこのプログラムを支える地域住民の一員として関わっていくことができる、またそれが求められるところも非常に魅力的に感じました。出発までの期間に行われた研修では、多忙の中多くのスタッフの方々が、尽力くださりサポートしてくださいました。感謝しかありません。娘は研修を通して、フォスターシティのみならず、稲城についても今まで知らなかった魅力を発見できたようです。このような点も地域の姉妹都市間のプログラムならではだと思いました。

初めての海外、しかもホームステイはかなりハードルが高く感じましたが、フォスターシティの方々はとても温かく迎えてくださり、素晴らしい体験となりました。

「どこに住んでいても人間ってあまり変わらないんだね」これは、帰国後娘が言っていた言葉です。娘が現地の人々と自然な交流ができたからこそ、そう思えたのだらうと感じました。

人は社会との関わりの中でこそ成長できる、今回のプログラムはそれを強く感じました。親以外の大人との関わり、学校以外の地域の仲間との関わり、そして、現地の人々との関わり、それらが娘を色々な面で成長させてくれました。

このプログラム、そしてフォスターシティとの友好都市関係が末長く続いていくように、これからもサポートして行けたらと思います。

繰り返しになりますが、関係者皆様に心より感謝申し上げます。

中井 敏生（引率者）



稲城市姉妹友好都市交流協会のボランティア活動に携わって以来、子供たちのホームステイを早く実現したいという思いがようやく現実になり、初めてのホームステイを実施することができました。初めてのプログラムで立ち上げに苦労しましたが、交流協会会員の皆さんの多大なご協力と多彩な経験をもとに、充実した事前研修も実施できました。

姉妹都市交流でのホームステイという、語学研修や留学でもなく観光でもない、市民レベルでの交流を目的としたこのプログラムの想いを参加者の皆さんには研修で伝え、プログラムと一緒に作ってもらうように心がけました。研修を通じて、参加者同士の結束も強まり、また壮行会で参加者の皆さんの決意を聞いて、我々のこのプログラムに対する想いも伝わっていると確信し、フォスターシティへ出発しました。

現地では、Davidさん、Tracyさんをはじめとしたフォスターシティ姉妹都市協会の皆さん、参加者をリードしてくれたLeiaさんやQuinlanさんをはじめとした現地の学生のみなさん、そしてホストファミリーの皆さんが、素晴らしい準備とおもてなしで稲城からの参加者を受け入れていただきました。今回現地で関わっていただいた皆さんの中の何人かは、稲城市に過去の交流で訪問をした経験がある方々で、稲城での我々のその時のもてなしが非常に嬉しく、是非稲城の人たちにもてなしのお返しをしたいと思っていた、というお話を伺いました。フォスターシティとの姉妹都市提携はまだ日が浅いですが、確実に交流の成果が芽生えてきている印象を強く持ちました。



現地滞在中は、私ども引率者もホストファミリー宅での滞在を経験しました。日頃ホテル以外での長期の滞在を経験する機会が無い私にとっても、良い経験を得ることができました。私自身は、稲城市との姉妹都市締結にご尽力いただいたフォスターシティ姉妹協会前会長のSteve Okamotoさんのご自宅での滞在となりました。日系人であるSteveさんご家族は、家庭内では英語ではありませんでしたが、食事や生活様式の節々に日系人としての営みと誇りを多く見受けることができました。先祖の文化を異国でも継承していく日系人と

してのアイデンティティの強さを肌で感じることができ、翻って自分自身のアイデンティティについても考えさせられました。参加者がホームステイしたご家庭も多種多様な国々



をルーツに持つご家庭が多かったので、私と同じように米国に居ながらも肌で多様性を感じる良い経験になったのではと思いました。これこそホームステイならではの体験ではないでしょうか。

今回の参加者の皆さんも、このプログラムを通じて、様々な発見や気付き、自分なりの反省や今後への決意があったと思います。それをスタートポイントとして、今後の勉強や

活動に活かしてもらい、また今後の交流協会でのフォスターシティでの交流活動にも参加してもらえれば嬉しいです。

若い世代の海外離れが話題になり、また技術革新の影響で子供たちがインターネット上での映像体験やヴァーチャル体験に満足してしまう現代社会では、様々な土地を訪れ、人と触れ合い、五感を通じた実際の体験をする機会がこれまで以上に重要になってきていると思います。ここ数年を振り返っても、各地での悲惨な紛争も多くなり、多様性を認め人類が共生を進めていく流れとは真逆な世界の動きになっていると感じています。今回のホームステイプログラムのように、子供たちを含めた市民レベルでの交流を継続し、異文化・多様性の理解を深めることが、そういう世界の動きを変えていく原動力になると確信しています。

最後になりましたが、このプログラムの実現にあたり、高橋稲城市長をはじめとした稲城市役所の皆さん、受け入れを実施いただいたフォスターシティ姉妹都市協会の皆さんとフォスターシティの市民の皆さん、献身的に活動いただきました交流協会会員・事務局の皆さん、そして保護者の皆さんに心より御礼を申し上げます。



藤島 亮子（引率者）



今年度、ホームステイプログラムの事前活動からかわり「ホームステイとは何？」と何度もケーススタディや日本文化紹介で問いかけ考えて貰いました。目指したのは「観光旅行ではなく交流を目的とした人と人をつなぐホームステイ」です。参加者には常に「お客様ではなく家族の一員になってね」と伝えました。実際に他人の

家に1週間滞在する経験は少ないと思います。それに加えて言葉の壁もあるので心の準備がないと色々な戸惑いや悩みが生じてしまいます。そのために、滞在中だけでなくその前後も含めて有意義な交流活動を叶えるために意識して活動しました。

初日のウェルカムパーティでは音楽隊の生演奏と、ホストファミリーのウェルカムボードで温かく迎えられました。若干の緊張があったもののそれぞれがホストファミリーに囲まれている姿をみて一安心しました。翌日企画されたポットラックパーティでは皆が日本食をホストファミリーと一緒に作ったようです。一緒にクッキングをすることがお客様としてではなくファミリーメンバーとなるきっかけとなったように感じました。また、パーティではホストファミリーチームでミッションをこなす、というゲームがありそれによって一気に距離感が近くなったように思います。そして最終日、空港では最後まで涙を流して別れを伝えていた参加者の姿には私自身も“もらい泣き”をし、皆が家族の一員となり、素晴らしい交流をしたのだらうと確信することができました。



参加者の中にはホストファミリーが英語以外の言葉で会話している家庭もありました。



戸惑いもあったようですが、最終的にはアメリカ以外の国の文化を学べた経験を喜んでいました。積極的に漢字や浴衣を紹介し、ポットラックパーティの時以外にも率先して日本食を作った子もいました。双方向の異文化交流ができたことは本当に嬉しく感じています。子ども達の感想から「フォスターシティには日本語が話せる人も多く、その人たちとは英語で話すべきか日

本語を話したいのか悩んだ」 「簡単なことは伝わったし、翻訳機も使ったので困った事はないけど、より深い内容の話しをするためにはもっと英語を勉強しなければならないなあと感じた。」 「いろんなものを食べたり買ったりする時にいつもお金を払ってくれるのが本当に申し訳なくてどうしたらよかったか今もわからない」これらの気づきは実際に体験してみないと感じない事で、参加者がそれらの気づきから今後の自分がどうありたいか、考えるきっかけとなることを願います。日本の学生にとって英語力をつけたいという思いが強くなるのは仕方ないことですが、何のために英語を身につけるのか、コミュニケーション力とは何なのか、どのような自分がステイすればホストファミリーが喜ぶのか、自分が伝えられる日本はどんなことか、などを考えるきっかけとなれば良いなあと思います。私自身もホームステイ中、日本とアメリカの子育てや教育の違い、料理や家事についてのアイデア交換など話し色んな発見がある充実した時間を過ごしました。



ホームステイは交流の入口です。帰ってきておしまいではなく今後もずっと関係を保てるようにして欲しいと切に思います。また、今回のホームステイをきっかけにホストファミリー同志の新たな交流も見受けられました。大変な面もあったと思いますがホストファミリーになって良かったなあ、と思える部分があれば本当に嬉しく思います。

最後になりましたが、このプログラムを実現するにあたり、高橋稲城市長をはじめ、稲城市役所のみなさん、受け入れに力を貸して下さったフォスターシティ姉妹都市協会の皆さんとフォスターシティの市民のみなさん、そして献身的に動いてくれた交流協会の会員・事務局のみなさん、さらに保護者のみなさんにも、心から感謝しています。

フォトアルバム

2月2日 オリエンテーション・第1回事前研修



3月30日 第2回事前研修



5月11日 第3回事前研修



6月15日 自主活動



事前研修以外にも、自主的に集まり、
現地で作る日本食の調理の練習と、
日本文化の紹介の仕方の練習を行いました。



7月13日 第4回事前研修・オリエンテーション



7月26日 壮行会

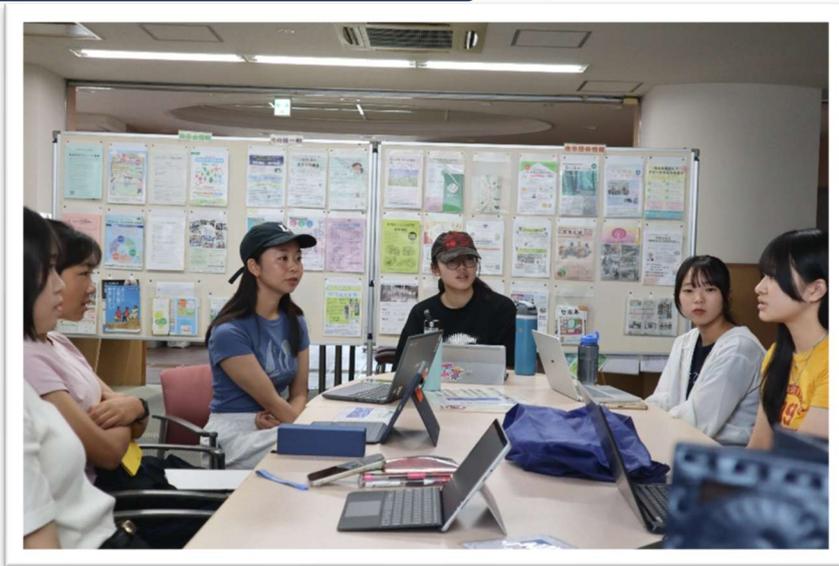


保護者の皆さんにもお手伝いいただき、壮行会開催前に、フォスターシティで会う人たちに手渡しできるようなお土産を手作りしました。

8月2日～12日 フォスターシティホームステイ

活動記録・参加者報告書のページをご覧ください

9月28日 報告書作成・報告会準備



11月9日 報告会



